

いずれも当日受付、先着順 / 参加無料です。

アーカイブズ展示

〈文書館閲覧室〉
「古文書に見る防長の美術工芸品」
 「防長古器考」ほか館蔵の防長の美術工芸品関係資料を展示します。
 6月7日(土)～6月8日(日) 9:00～17:00

ギャラリートーク

〈文書館閲覧室〉
 文書館員が展示解説を行います。
 6月7日(土) 10:30 / 16:00
 6月8日(日) 10:30 / 15:00 各定員30名

歴史探究講座

第67回山口県文化財愛護教室・共催
 〈県立山口図書館レクチャールーム〉
文書と防長ゆかりの美術品
 神戸大学名誉教授 影山純夫
狩野古信の雪舟筆「山水長巻」模写について
 山口県文書館囑託 吉積久年
 6月7日(土) 13:30～15:30
 定員250名

文書館書庫見学ツアー

文書館書庫を特別に公開します。
 大量の文書群に感動間違いなし!
 5月31日(土) 10:30 / 14:30
 6月1日(日) 9:30 / 15:30
 6月3日(火)～6日(金) 10:30 / 14:30
 6月7日(土) 9:30 / 11:30
 6月8日(日) 11:30 / 16:00
 各定員10名

文書館を使ってみよう!

〈県立山口図書館第1研修室・文書館閲覧室〉
 文書の取り扱い方や文書館の利用方法をガイドします。
 6月1日(日) 10:30～12:00
 定員30名

アーカイブズ歴史小話

〈県立山口図書館第1研修室〉
 文書館専門研究員がアーカイブズについての
 「ちょっといい話」をリレー形式で紹介します。
 6月1日(日) 13:30～14:30 第1話～3話
 6月8日(日) 13:30～14:30 第4話～6話
 各定員40名



◎第9回 中国四国地区アーカイブズウィーク日程

	5月31日(土)	6月1日(日)	6月2日(月)	6月3日(火)～ 6月6日(金)	6月7日(土)	6月8日(日)
アーカイブズ 展示					● 9:00～17:00	● 9:00～17:00
ギャラリー トーク					● 10:30/16:00	● 10:30/15:00
歴史探究 講座					● 13:30～15:30	
文書館書庫 見学ツアー	● 10:30/14:30	● 9:30/15:30			● 10:30/14:30	● 11:30/16:00
文書館を 使ってみよう!		● 10:30～12:00				
アーカイブズ 歴史小話		● 13:30～14:30				● 13:30～14:30

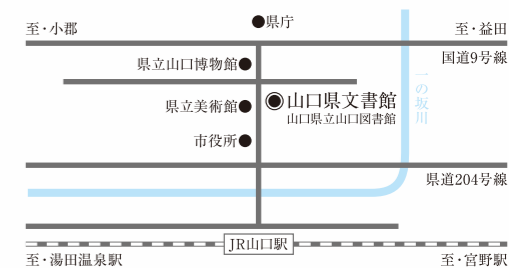
第9回 中国四国地区アーカイブズウィーク

◎ウィークの期間中、閲覧業務は通常どおり行います。
 (但し、6月2日(月)、6月7日(土)、6月8日(日)、を除く)

アーカイブズウィークとは、「公文書館法」の施行(昭和63年6月1日)を記念し、文書館の業務に対する理解を広め、アーカイブズ(記録資料)の保存・活用を促進するPR事業です。期間中、中国四国地区の文書館施設で様々な行事を行います。

山口県文書館

〒753-0083 山口市後河原150-1
 TEL (083) 924-2116 FAX (083) 924-2117
<http://ymonjo.ysn21.jp/>



表紙・紙本着色「四季耕作図」笹山養意筆/安部家文書1526



古文書に見る防長の
美術工芸品

2014.5.31 SAT — 6.8 SUN

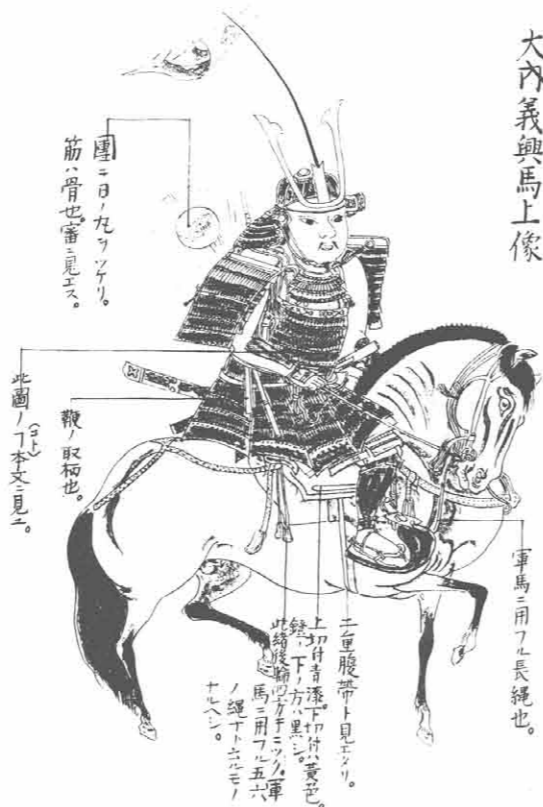
中国四国地区 アーカイブズウィーク 第9回
 山口県文書館 〒753-0083 山口市後河原150-1 TEL(083)924-2116 FAX(083)924-2117 http://ymonjo.ysn21.jp/ 6月2日(月/閉館)
 主催:山口県文書館 共催:山口県文化財愛護協会 後援:全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、山口県地方史学会、(一社)山口県観光連盟、(一財)山口観光コンベンション協会
 アーカイブズウィークとは、「公文書館法」の施行(昭和63年6月1日)を記念し、文書館の業務に対する理解を広め、アーカイブズ(記録資料)の保存・活用を促進するPR事業です。期間中、中国四国地区の文書館施設で様々な行事を行います。

美術とアーカイブズ

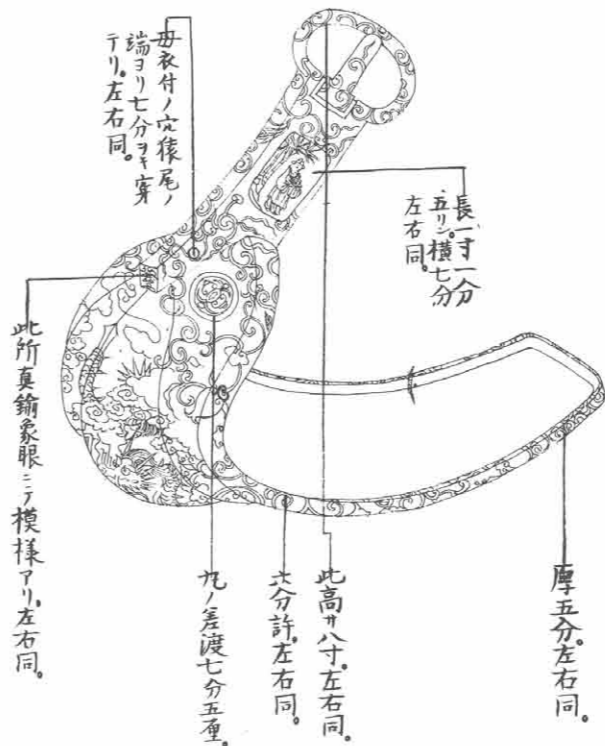
古文書に見る防長の美術工芸品

2014.5.31 SAT — 6.8 SUN

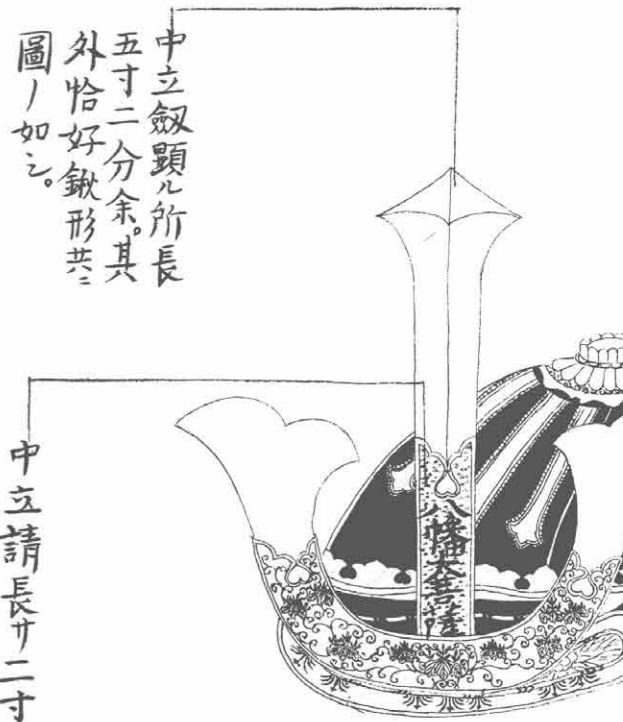
6月2日(月)は閉館



大内義興馬上像



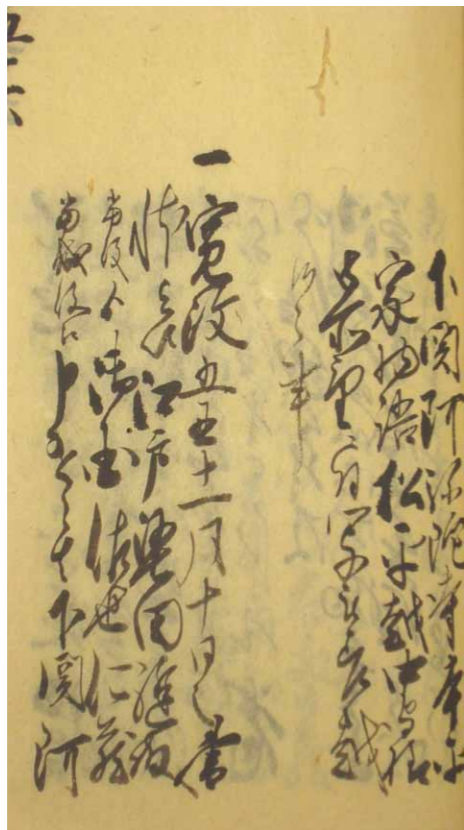
佐々木四郎高綱鐙之圖 左右



中立劔頭ノ所長五寸二分余。其外恰好劔形共ニ圖ノ如シ。

中立請長サ二寸七分。

アーカイブズ展示では、このほかに、萩焼や多聞院(下松市)の須弥山図(星宿図・県指定有形文化財)に関する興味深いエピソードも紹介します。

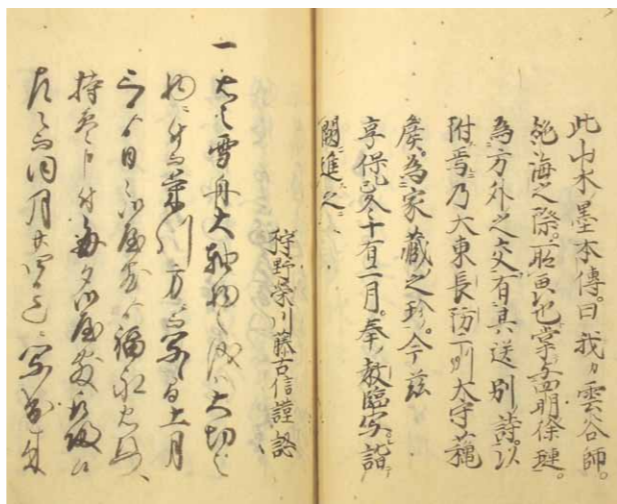


諸事少々控 / 毛利家文庫31小々控17(74)の20

寛政の改革で名高い老中松平定信(越中守、一七五八〜一八二九)は、全国に名筆・尊筆の古額や什物の古書類を書き上げさせたほかに赤間神宮(当時は阿弥陀寺)に伝わる「平家物語」(重要文化財)の写本を所望し、進呈させました。

松平定信へ「平家物語」を

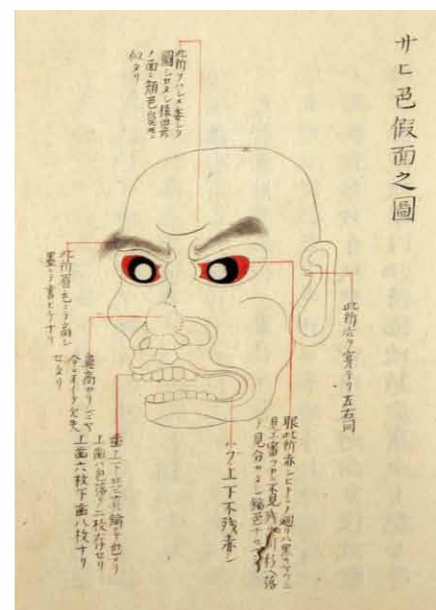
毛利博物館に伝わる雪舟筆・国宝「紙本墨画淡彩四季山水図」(山水長卷、全長一六メートル)には二つの模写本が存在します。ひとつは、国宝の附指定を受けている萩藩御用絵師雲谷等顔(一五四七〜一六二八)筆と伝えられるもの。もうひとつが幕府御用絵師狩野古信(一六九六〜一七三二)の筆によるもので、享保十年(一七二五)の奥書があります。この模写の経緯を詳細に記録した文書によれば、萩城の御宝蔵に収蔵されていたこの長巻を、江戸藩邸へ運び入れたのち、二二日の間、毎日、古信の自宅に移して写し取ったと記されています。



公儀事諸控 / 毛利家文庫41公儀事7(37)の16

雪舟筆「山水長卷」を写す

江戸時代、萩藩は領内規模で、いろいろな美術工芸品の調査を行いました。安永三年(一七七四)完成の「防長古器考」は、その代表例です。調査対象は藩士・社寺を中心とし、多くは精密な図入りで、一部は彩色を施しています。現在、その多くを見ることができなくなっており、貴重な美術工芸品調査報告書となっています。



防長古器考 有図第69(今八幡宮) / 防長古器考70

萩藩士らの美術工芸品リスト

雪舟・雲谷派の絵画や萩焼は、本県を代表する優れた美術工芸品です。毛利家文庫をはじめとした県図書館所蔵の文書群には、これら美術工芸品のルーツや歴史を物語る文書が、数多く含まれています。今回は、萩藩士や寺社などが所蔵する美術工芸品の調査報告書「防長古器考」を中心に、江戸時代の美術工芸品の状況を紹介します。本県ゆかりの美術工芸品の歴史を振り返ります。この機会に、美術とアーカイブズの貴重で意外な出会いを体験してみませんか。